令和４年度　公益財団法人こころすこやか財団　事業報告

～目　次～

公益財団法人こころすこやか財団の運営

(1) 理事会・評議員会

公益事業１：障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らせる地域づくり事業

(1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業
- ◆ 地域生活支援センター青明舎／特定相談支援事業所青明舎
- ◆ 障害者就業・生活支援センターみさわ
- ◆ ここすこグループホーム
- ◆ グループホーム青風荘
- ◆ 障害者生活訓練施設青山荘
- ◆ 障害者就労移行支援事業
- ◆ 認知症対応型通所介護　結び家
- ◆ ケアプランセンターまゆすい
- ◆ 認知症事例検討会
- ◆ 青森県若年性認知症総合支援センター
- ◆ メンタルヘルス事業

(2) 障害者・高齢者・認知症者に関する普及啓発事業
- ◆ 障害者の作品展示
- ◆ 障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催
- ◆ 高齢者・認知症者を対象とした介護予防等に関する講習会、健康教室等の開催
- ◆ 法人後見の実施及び成年後見制度利用に関する支援
- ◆ もの忘れ検診機器の貸し出し
- ◆ 関係団体と連携した、認知症者の屋外徘徊を想定した模擬訓練の実施

収益事業１

(1) 自動販売機等の設置及び不動産貸付事業及びレストランサービス事業

委員会（ホームページ委員会/感染対策委員会/教育委員会/行事委員会/事故・苦情対策委員会/防災委員会/虐待防止委員会/身体拘束適正化委員会）

◆理事会・評議員会

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

精神疾患及び精神障害の予防並びに治療に係る研究に関する活動と、障害者や高齢者の社会生活全般に関する支援活動を行うとともに、心の健康を普遍化して偏見をなくした心豊かな社会づくりを目指すため、適正な法人の運営を行った。

【報告項目】

①理事会の開催

②定時評議員会・臨時評議員会の開催

【報告内容】

①理事会の開催

理事会を３回開催した。

	開催日	議案
第１回理事会	R4．6．2	令和３年度　事業報告について承認を受ける件 令和３年度　決算報告について承認を受ける件 任期満了による理事の改選候補者推薦案について承認を受ける件 令和４年度定時評議委員会の招集について承認を受ける件 令和４年度第１回臨時評議員会の招集について承認を受ける件 令和４年度　青明舎・ＤａｉＤａｉの土地整地及び土留め追加工事、および銀行借入金額増額について承認を受ける件
第２回理事会	R4．6．22	代表理事の選定
第３回理事会	R5．3．9	令和５年度事業計画（案）について承認を受ける件 令和５年度収支予算（案）について承認を受ける件 令和４年度補正予算（案）について承認を受ける件 令和５年度役員等関連取引について承認を受ける件 令和４年度第２回定時評議員会の招集について承認を受ける件

②定時評議員会・臨時評議員会の開催

定時評議員会の他、臨時評議員会を２回開催した。

	開催日	議案
定時評議員会	R4．6．22	令和３年度事業報告について承認を受ける件 令和３年度　決算報告について承認を受ける件 任期満了による理事の改選候補者推薦案について承認を受ける件 令和４年度　青明舎・ＤａｉＤａｉの土地整地及び土留め追加工事、及び銀行借入金増額について承認を受ける件
第１回 臨時評議員会	R4．6．22	常勤理事の報酬額の決定
第２回 定時評議員会	R5．3．24	令和５年度事業計画（案）について承認を受ける件 令和５年度収支予算（案）について承認を受ける件 令和４年度補正予算（案）について承認を受ける件

◆地域生活支援センター青明舎

報告担当者　センター長　森　富茂子

【報告概要】

障害者及び家族からの来所相談・電話相談・訪問相談を行い、生活全般・医療・日常生活上の悩み事等へ、必要な情報の提供及び助言、解決を講じ、関わる機関との連絡調整やケース検討を行うことで解決に努めた。医療と連携し、入院・退院時に関わって、障害者の体調維持支援を行った。

令和４年度中の新型コロナウイルス感染拡大時は活動自粛が必要な期間もあり、行事、プログラム実施を計画通りに提供することが難しかった。

八戸市は障がい者相談支援事業者連絡会議の運営に携わり、新郷村は新郷村障害者地域自立支援協議会委員、階上町は階上町障害者自立支援協議会委員として、地域の現状を伝える役割を担い福祉計画策定に助言した。

【報告項目】

①相談支援事業
②地域活動支援センターⅠ型事業
③指定特定相談支援事業　（サービス利用支援・継続利用支援）
④指定一般相談支援事業　（令和元年１１月１日より休止）
⑤職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

【報告内容】

①相談支援事業

１）相談支援事業

訪問、来所相談、電話相談にて以下の相談に応じた。

- 福祉サービスの利用援助に関すること
- 社会資源を活用するための支援に関すること
- 社会生活力を高めるための支援に関すること
- 権利擁護のために必要な援助に関すること
- 専門機関の紹介に関すること

新型コロナウィルス感染防止対策として、活動室の利用時間に制限を設けて密を避ける対応を取ったが、前年度より活動室開所の総時間が長かったことから、前年度に比べて来所相談数が増えている。また不安が多い利用者様が安心して継続した地域生活を送られるよう、同行支援や関係機関との連絡調整、個別ケア会議を実施したり、地域の関連機関のケア会議に参加した。委託市町村には毎月実績報告書を提出し、状況把握に役立て必要時に連携した。

月	行動報告	
随時	支援内容	年間延べ利用件数
	訪問	284件
	来所相談	1，265件
	同行	48件
	電話相談	1，153件 （夜間電話含む）
	関係機関との連絡調整	2，542件
	個別ケア会議	20件
	訪問、来所、同行、電話相談等の対応	

２）相談支援機能強化事業

相談支援機能の強化を図るため、一般的な相談支援事業に加え、相談支援事業が適切かつ円滑に実施されるよう、関係機関に専門的指導、助言を行った。

月	行動報告
随時	必要に応じ、相談支援事業者に対する専門的指導、助言を行う

令和４年度は、１件の特定相談支援事業所に助言あり。

３）地域自立支援協議会（個別ケア会議）への参加

八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議は、オンライン研修会を開催。

新郷村は、新郷村障害者地域自立支援協議会委員、階上町は、階上町障害者自立支援協議会委員として協議会に参加。

月	行動報告
随時	八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議事務局会議
R4．11．30 R5．3．1	八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議 第１回八戸市内支援機関の役割と連携について 第2回「性」について悩みを共有しよう
R5．3	新郷村障害者地域自立支援協議会委員委嘱
R4．12．21	階上町障害者自立支援協議会

４）入居等支援事業

賃貸契約による一般住居を希望しているが保証人がいない等の理由により入居が困難な方、各市町村が運営する住宅入居者に、必要な調整等の支援を行った。

月	行動報告
随時	関係機関との連絡・調整、地域生活の支援、緊急時の対応・支援 ※登録者：１１名 ※年間延べ利用件数：８５件

利用登録者が３名増え、利用件数が前年度比２０件増となっている。

５）成年後見制度利用支援事業

成年後見制度の利用が認められる知的障害者又は精神障害者に対し、申立て等について、各市町村と連携を取りながら支援する。

②地域活動支援センターⅠ型事業

１）プログラム活動の企画・運営

活動室を開放し、社会生活に必要なスキルの維持・向上を図るプログラムを実施。

月	行動報告
4月	年間活動スケジュールの作成
毎月	プログラム活動月間予定表の作成
通年	活動室の開放、メンテナンス

２）余暇活動（行事、イベント）の企画・運営

生活のしづらさを感じやすい障害者や、引きこもり等、既存の社会資源を利用できない層の相談窓口となり、障害者と地域社会の交流を図った。

行事・イベントについては、コロナ感染流行時は中止で対応し、実施の際は感染防止を徹底した。

月	行動報告	参加数
4月	行事企画無し	
5月	宝石石鹸作り	中止
6月	エコバック作り	2名
7月	ガラスタイルコースター作り	中止
8月	染物教室	中止
9月	染物教室	2名
１０月	ハロウィンランタン	4名
１１月	紙コップバスケット	3名
１２月	松ぼっくりツリー作り	4名
1月	宝石石鹸作り	4名
2月	エクササイズ	2名
3月	ピンポン大会	4名

3）障害者サポーター養成、障害に対する理解促進を図る為の普及啓発活動

医療・福祉及び地域の社会的基盤との連携強化のための調整、障害に対する理解促進を図る為の普及啓発活動の事業を実施した。

月	行動報告
随時	年間活動スケジュールの作成、障害者サポーター登録、サポーターデータ管理表作成
R5．2．17	八戸学院大学でサポーター養成講座開催 短期大学部介護福祉学科１年生　１７名 人間健康学科２年生　５名 看護学科２年生　１名 地域経営学科教授　１名 参加者合計　２４名

4）ライフサポート

日常生活の支援、日常的な相談への対応、日常生活の質の向上と問題解決のための援助及び情報提供を実施。

月	行動報告
4月	定期訪問者　訪問スケジュール作成
随時	訪問、来所、同行、電話相談等の対応、定期訪問
通年	入浴、洗濯、インターネット、食事作り、緊急時対応（オンコール）

支援内容	年間延べ利用件数
入浴	１７９件
洗濯	６６件
インターネット	０件
食事作り	０件
夜間電話	３８６件

コロナ感染流行時期に活動室を閉館するなど対応していたことも影響し、利用件数は前年度に比べて減少している。

③指定特定相談支援事業

サービス利用計画の作成、事業者との連絡調整及びサービス等の利用状況のモニタリングを行い、利用者が安心して障害福祉サービスが受けられ、目標に近づくよう支援した。

コロナ禍においても、新規利用支援１９名増となった。

月	行動報告
随時	相談支援・サービス等利用計画作成・サービス担当者会議実施 モニタリング実施・作成料請求業務

登録者数・実績表

月	新規（利用支援）	継続（継続支援）	新規登録者数	登録解除者数
4月	7名	27名	3名	2名
5月	9名	22名	1名	0名
6月	9名	16名	2名	0名
7月	5名	36名	0名	1名
8月	7名	18名	2名	0名
9月	10名	34名	1名	1名
10月	7名	23名	0名	2名
11月	11名	21名	2名	3名
12月	12名	27名	2名	0名
1月	7名	35名	2名	0名
2月	10名	28名	2名	1名
3月	9名	34名	2名	2名
合計	103名	321名	19名	12名

④指定一般相談支援事業

３６５日・２４時間で支援する体制を維持することが難しくなったことが理由で、令和元年１１月1日より事業休止としている。

１）地域移行支援

月	行動報告
随時	・住居確保その他の地域生活に移行するための支援に関する相談 ・地域生活への移行のための外出時の同行 ・体験宿泊 ・地域移行支援計画の作成

２）地域定着支援

居宅において単身等の状況において生活する障害者等に対して、当該障害者等との常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等において相談に応じる。

⑤職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

月	行動計画
R4．7	リスクマネジメントについて
R4．9	介護保険制度と障害者の介護保険校について
R4．12	覚せい剤既往歴のある方の特徴と支援で注意すべき点

◆障害者就業・生活支援センターみさわ

報告担当者　センター長　坂下　優子

【報告概要】

就職を希望する障害者、職場不適応により離職した障害者や離職のおそれがある在職中の障害者に対し、障害者就業・生活支援センターにおいて、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行うことにより、障害者の職業生活における自立を図ることを目的とした。また、生活支援担当職員が支援対象者の家庭等や職場を訪問し、生活上の相談等に応じ、就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行うことにより、障害者の就労継続を図ることを目的として運営した。令和４年度はコロナウイルスの流行状況を注視しながら、なるべく通常の支援体制を維持できるよう工夫して業務を行った。

【報告項目】

①雇用安定等事業
②生活支援等事業

【報告内容】

①雇用安定事業

１）障害者の就業支援

就職に向けた準備支援（職業準備訓練、職場実習のあっせん）、求職活動の支援、職場定着支援、事業所に対する障害者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

月	行動報告
通年	職場実習場所の開拓、確保、職場実習の実施、事業所への説明、利用者への説明、短期職場実習制度の利用、求職活動支援、職場定着支援

２）障害者の就業支援からみる生活支援　※②生活支援等事業と連動

生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言、地域生活、生活設計に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

月	行動報告
通年	家庭・職場・実習先への訪問巡回、職場定着支援、利用登録の意志確認、在職者交流会

３）目標件数の達成状況

目標件数設定項目	令和４年度目標値	令和４年度達成値	達成率
職業準備訓練及び職場実習のあっせん件数　（件）	２０件	２１件	１０５%
就職件数　（件）	２５件	２６件	１０４%

４）各関係機関との連携、情報交換、報告

事業が円滑かつ効果的に行われるように関係機関と連絡を密にし、連携体制を構築した。

＊コロナウイルスの影響で例年実施している会議等が中止や縮小傾向。
　当センターの事業は感染対策に留意しながらできるだけ実施するよう心掛けた。

月	行動報告
R4．4．28	第１回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加（オンライン開催）
R4．6．11	第１回在職者交流会
R4．6．17	障害者就業・生活支援センターみさわ事業連絡会議実施
R4．6．17	第１回職業センター・３ハローワークとの定例会開催
R4．6．21～23	職場体験年間プログラム②
R4．8．7	第２回在職者交流会
R4．7．21	進路講話会（七戸養護学校）
R4．7．22	進路講話会（青森第二高等養護学校）
R4．7．25～	四者面談（七戸養護学校）参加
R4．7．27～	四者面談（青森第二高等養護学校）参加
R4．8．17	四者面談（八戸高等支援学校）参加
R4．8．26	第２回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加（オンライン開催）
R4．9．7	企業座談会
R4．9．13～15	職場体験年間プログラム④（東管工業株式会社）
R4．10．3～12	ステップアップ講座開催
R4．10．3	ピアサポート活動（ステップアップ講座と共催）
R4．11．2	第２回職業センター・十和田ハローワーク・三沢ハローワークとの定例会開催
R4．11．7	第２回職業センター・野辺地ハローワークとの定例会開催
R4．11．15～17	職場体験年間プログラム③（スカイプラザミサワ株式会社）
R4．11．26	第３回在職者交流会開催
R4．11．28～30	職場体験年間プログラム⑤（株式会社マルゼン北日本物流センター）
R4．12．3	第４回在職者交流会開催
R5．1．25	優良事業所見学会開（株式会社グリーンソウルにて集合形式とオンライン形式のハイブリッド開催）
R5．2．24	第４回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加（オンライン開催）
R5．3随時	移行支援会議（七戸養護学校、青森第二高等養護学校、八戸高等支援学校）参加
適宜	特別支援学校生徒、企業実習の巡回協力実施 ハローワークとのチーム支援会議実施 地域自立支援協議会（三沢市・十和田市）参加

5）啓発活動

月	行動報告
R4．9．2	障害者雇用啓発のための企業訪問（青森県労政・能力開発課共催）

6）スタッフ教育・人材育成

＊コロナウイルスの影響で多くの研修がオンライン開催

月	行動報告
R4．9．30	就労支援ＮＩＰＰＯＮミニフォーラム（オンライン開催）
R4．10．17	北海道・東北ブロック経験交流会議（オンライン開催）
R5．2．10～11	第9回ナカポツ全国フォーラム（オンライン開催）
R5．2．24	事業実施報告会（オンライン開催）

②生活支援等事業

1）日常生活の自己管理に関する指導・助言

月	行動報告
随時	生活習慣の形成や日常生活の自己管理のための助言 健康管理や金銭管理等に関する指導・助言 保健医療機関、生活支援サービス利用の支援を実施

2）地域生活に関する指導・助言

月	行動報告
随時	住居の確保や年金などの申請に関して助言 活用できる福祉サービスの利用調整を実施 就業後や休日における余暇活動について助言

3）生活設計に関する指導・助言

月	行動報告
随時	長期的な視野での生活設計等について指導・助言 本人の自己選択・自己決定に関する助言

4）家族、知人が関係する課題が表出している時は解決に必要な調整支援を行った。

5）その他就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行った。

◆ここすこグループホーム

報告担当者　管理者　高橋　昭徳

【報告概要】

障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業「外部サービス利用型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同して自立した日常生活及び社会生活を営む事ができるよう援助し、障害者の福祉の増進を図った。

コロナ禍で利用者様に行動制限等お願いする機会も多かったが、その中でも安心して生活を送ることが出来るよう支援した。

【報告項目】

①ここすこグループホームの運営

「１番館（定員：男性１０名）」「２番館（定員：５名）」「３番館（定員：男性７名）」

「５番館（定員：女性７名）令和４年５月から休止中」

１）個別支援計画の作成及び提供

２）関係機関との情報共有及び連携

３）生活の質の向上及び健康の維持

４）訓練等給付費請求・受領業務

５）生活費等の出納管理

６）訓練等給付の支給決定内容の管理

７）外部サービス利用時の連絡調整

８）年間利用者状況

９）安定した収入の確保

10）職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

【報告内容】

①ここすこグループホームの運営

１）個別支援計画の作成及び提供

利用者の意向、適正、障害の特性を踏まえた個別支援計画を作成し提供するとともに、断続的な評価を実施し適切かつ効果的な援助を提供した。

実施月日	実施内容
適宜	アセスメント
適宜	個別支援計画の評価・個別支援計画の作成検討会議
適宜	個別支援計画の作成と同意・提供

２）関係機関との情報共有及び連携

利用者の意思及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供と、医療、関係機関、家族との連携、調整を行なった。

実施月日	実施内容
随時	通院同行、関係機関同行 家族と連絡、情報交換 サービス担当者会議・ケア会議の実施、参加

3）生活の質の向上及び健康の維持

生活の質の向上と健康維持の為の援助を提供した。
利用者様全員に市町村が実施している健康診断を受けてもらい、個人の健康状態の把握に努めた。
またかかりつけ医に相談しながら、必要な方に再検査実施している。

実施月日	実施内容
R4．7．3 R5．3．12	日中想定通報・避難訓練 夜間想定通報・避難訓練
随時	服薬管理・健康管理・生活相談・建物管理・設備管理・環境整備・大掃除支援等
R4．9．29 R4．9．30 R4．10．6 R4．10．13 R4．11．14	健康診断の実施及びその同行、実施医療機関と連絡調整、かかりつけ医への報告、再検査実施 ①健診実施・同行（利用者3名・同行者2名） ②健診実施・同行（利用者4名・同行者2名） ③健診実施・同行（利用者3名・同行者2名） ④健診実施・同行（利用者1名・同行者1名） ⑤健診実施　　（利用者1名・単独）
R4．9．26 R5．3．28	保護者に向けて日常状況等を発信 ・グループホーム便り
R4．8．20 R5．2．18	行事 ①冷やし中華（4名） ②デリバリー利用（3名）

4）訓練等給付費請求・受領業務

サービス費等請求業務及びサービス費等代理受領業務

実施月日	行動計画
毎月	利用料金の徴収 国保連の請求及び代理受領 会計に関する諸記録の整備

5）生活費等の出納管理

家賃、水光熱費、その他日常に要する費用に関する金銭管理を行った。

実施月日	実施内容
毎月2日	利用料金の徴収・返金 会計に関する諸記録の整備

6）訓練等給付の支給決定内容の管理

実施月日	行動計画
随時	訓練給付サービス支給更新手続き 利用者負担上限額更新手続き

7）外部サービス利用時の連絡調整

実施月日	行動計画
随時	個別支援計画に基づいた居宅介護支援事業所への依頼及び連絡調整 関係機関への情報提供等

8）年間利用者状況

単位：人

月	１番館 定員１０名（男）			２番館 定員５名（男女）			３番館 定員７名（男）			５番館 定員７名（女） 令和４年５月 から休止		
	入	退	利用者実数	入	退	利用者実数	入	退	利用者実数	入	退	利用者実数
延利用者数計	１	０	７５	２	２	３２	１	１	７０	０	１	１
前年度			７９			１８			７９			３３

9）安定した収入の確保

広報活動：関係機関への広報活動を計画し、営業活動の実施。問い合わせの件数は増加している。

・営業活動

月	行動計画
R4．１１	障害者施設　４ヶ所 相談支援事業所　４ヶ所 病院・自治体　２ヶ所
R4．１２	障害者施設　２ヶ所 相談支援事業所　３ヶ所
R5．３	障害者施設　３ヶ所

10）職員のサービスの質の向上を目指した事業所内研修の実施

月	行動計画
R4．７	現場で起きるリスクマネジメント
R4．９	自立支援医療制度と重度障害者医療助成制度

◆グループホーム青風荘

報告担当者　施設長　坂本　美由紀

【報告概要】
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「介護サービス包括型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同で自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう日常生活上において必要となる援助を行い、生活能力の低下防止と生活の質の向上・自立の促進を図った。

【報告項目】
①グループホーム青風荘の運営（定員２０名）
１）日常生活上の支援全般、相談、連絡調整
２）個別支援計画の作成、ケアマネジメントの実施
３）関係機関との情報共有及び連携
４）健康管理
５）非常災害対策
６）利用者負担金及び生活費等の出納管理
７）介護給付費請求・受領業務
８）訓練等給付費の支給決定内容の管理
９）余暇活動支援
10）年間利用者状況

【報告内容】
①グループホーム青風荘の運営
１）日常生活上の支援全般、相談、連絡調整
１日を通して日常生活の質の向上・維持の為、利用者の意向を踏まえ、日常生活に必要なサービス（家事・相談・助言等）を２４時間体制で提供した。

実施月日	実施内容
通年	夜間においての排泄の介助や見守り 入浴・食事等の支援、洗濯及び掃除・買物等の身の回りや家事全般に関する相談や援助 公共機関利用の支援
随時	支援会議の実施

日中活動の場等関係機関との連絡・調整

実施月日	実施内容
毎週・月～金	通所リハビリテーション青陽館との情報共有、及びプログラム参加の支援
随時	ケア会議への参加

２）個別支援計画の作成・ケアマネジメントの実施
利用者・家族の現状やニーズなどを把握するためにアセスメント及びモニタリングを実施し、個別支援計画を作成し、それに基づいて適切なサービスを提供した。

実施月日	実施内容
随時（６ヶ月以内）	個別支援計画書の作成及び更新 個別支援計画作成検討会議

3）関係機関との情報共有及び連携

実施月日	実施内容
適宜	外来受診時における利用者の身体・精神状況の情報提供及び同行支援 家族との連絡・面談及び情報交換 ケア会議への参加

4）健康管理

定期検診の実施

実施月日	実施内容
朝・夕（毎日）	対象者のバイタル測定
R４年7、8月 R４年１２月	新型コロナワクチン予防接種（4回目１９名） 新型コロナワクチン予防接種（5回目１８名、4回目2名）
R４年9、１０月	胸部X－P（一般者１９名）
R４年9、１０月 R５年2、3月	定期採血、検尿検査（一般セット１９名） 定期採血、検尿検査（一般セット２０名）
R４年１０、１１月	インフルエンザ予防接種（２０名）
R４年１０～１２月	頭部ＣＴ検査、心電図（１９名）

5）非常災害対策

実施月日	実施内容
R４年8月	避難誘導訓練（夜間想定）
R５年2月	避難誘導訓練（夜間想定）
毎月	消防用設備の自主点検
年度末	消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検表の提出

6）利用者負担金及び生活費等の金銭管理

利用者負担額等の請求・利用料等の受領業務

実施月日	実施内容
毎月	利用料の徴収・返金 会計に関する諸記録の整備

7）介護給付費請求・受領業務

サービス費等請求業務及びサービス費等法定代理受領業務

実施月日	実施内容
毎月	国保連への請求・受領 会計に関する諸記録の整備

8）訓練等給付費の支給決定内容の管理

月	行動計画
随時	訓練給付サービス支給量更新手続き 利用者負担上限額更新手続き

9）余暇活動支援

レクリエーションの実施

利用者が高齢となってきた事、コロナウイルス感染対策のため外出を控え、荘内で季節に合わせた行事を中心に実施。

月	行動計画
R4年　4月	春の周辺散策
5月	誕生会
6月	青風荘祭り
7月	出前ランチ
8月	納涼会
9月	バイキング体験
10月	誕生会、三戸散策（外出）
11月	球技大会
12月	クリスマス忘年会
R5年　1月	新年会
2月	誕生会
3月	季節を感じる食

10）年間利用者状況（利用者数は毎月末日現在）

	各月在所人数			入　所			退　所		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
延利用者数計	111	120	231	2	0	2	1	0	1
前年度	115	117	232						

利用者の高齢化に伴い、身体機能の低下等の理由から高齢施設への移行を進めている。

◆障害者生活訓練施設　青山荘

報告担当者　管理者　高橋　昭徳

【報告概要】

障害者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上を目的に、食事や日常生活全般に関わる必要な生活訓練を行った。また、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供、地域連携に努めた。

【報告項目】

①障害者生活訓練施設青山荘の運営

（通所型生活訓練　定員２０名　宿泊型生活訓練　定員２０名）

１）個別支援計画の作成、モニタリングの実施
２）社会生活力を高めるためのプログラムを実施
３）運営に関する会議
４）関係機関との情報共有、及び連携
５）生活の質の向上・維持
６）生活費等の金銭管理
７）訓練等給付費の請求及び受領業務
８）利用者の確保
９）年間利用者状況

【報告内容】

①障害者生活訓練施設　青山荘の運営

１）個別支援計画の作成、モニタリングの実施

利用者の置かれている環境及び日常生活全般の状況等を通じて、利用者及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき達成目標を設定し、サービス担当者会議を経て個別支援計画を作成した。個別支援計画書作成後、３ヶ月に１回以上定期的に個別支援計画実施状況の把握を行い必要に応じて個別支援計画の変更を行った。

実施月日	実施内容
随時	アセスメントの実施、個別支援計画の作成 モニタリングの実施（３ヶ月に１回以上）、個別支援計画の見直し

２）社会生活力を高めるためのプログラムを実施

◆ 健康管理
◆ セルフケア（保清）
◆ 安全・危機管理
◆ すまい
◆ 買い物
◆ コミュニケーション
◆ 運動
◆ 食生活
◆ 生活リズム
◆ 金銭管理
◆ 掃除・整理
◆ 服装
◆ 外出・余暇支援
◆ 病気の理解

実施月日	実施内容
毎月２０日	翌月のプログラム予定表を作成
毎日	各利用者に合わせて集団・個別プログラムを実施
R４年4月6月7月8月 9月１０月１２月 R５年3月	コロナウイルス感染対策のため、特別プログラムを定期的に荘内で実施。 お楽しみ会・ＢＢＱ・ハロウィン・特別調理・クリスマス会

3）運営に関する会議

利用者に関する情報の共有、連絡事項、支援内容の見直しなどについて会議内で検討した。

実施月日	実施内容
毎月１回	利用者に関する情報・連絡事項・支援内容の見直し等について所内会議を行った

4）関係機関との情報共有、及び連携

利用者の意志及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供、及び医療、関係機関、家族との密接な連携を図った。

実施月日	実施内容
適宜	必要に応じて関係機関・家族への情報提供（家族交流会）、ケア会議の招集、ケア会議への参加

5）生活の質の向上・維持

実施月日	実施内容
毎月	苦情処理委員会の開催
R４年7月・R５年3月	避難訓練（消防計画・報告書の提出）
適宜	消防用設備の自主点検実施（専門業者に委託） 令和４年度分の消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検票をR５年４月に消防署へ提出）

6）生活費等の金銭管理

利用者・家族の希望に応じて生活費等の金銭管理等を行った。

実施月日	実施内容
適宜	新規利用者へ金銭管理方法を確認 事業所で通帳・印鑑・現金等を預かる際は、預かり証にサインをいただいてから預かった

7）訓練等給付費の請求及び受領業務

毎月サービス利用費等を国保連へ請求する。また国保連よりサービス利用費の代理受領業務を行った。

実施月日	実施内容
毎月	サービス利用費等を国保連へ請求、代理受領書の発行

8）利用者の確保

利用率を維持するために病院・関係機関への連絡調整を行った。

実施月日	実施内容
適宜	青南病院や相談支援事業所などの関係機関へ利用希望者や生活訓練が該当する利用者がいないか適宜連絡調整を行った

9）年間利用者状況

Ⅰ.「宿泊型」　　単位：人

	年間訓練利用者数			新規訓練利用者数			訓練修了者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計	101	55	156	2	4	6	5	3	8

年間平均利用数	今年度	13．0
	前年度	13．8

Ⅱ.「通所型」　　単位：人

	年間訓練利用者数			新規訓練利用者			訓練終了者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計	97	44	141	2	4	6	5	2	7

年間平均利用数	今年度	11．8
	前年度	11．8

◆障害者就労移行支援事業

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「就労移行支援事業」において、障害者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上、また社会経済活動への参加のための就労訓練を行い、社会参加を促進すると共に障害者の自立した生活を助長するため障害者就労移行支援事業所の立ち上げに関しての検討を行う予定としていたが、未検討となった。

【報告項目】
①障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備

【報告内容】
①障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備
需要が現状では見込まれないため、事業立ち上げは未検討となった。

◆指定（介護予防）認知症対応型通所介護事業　結び家

報告担当者　管理者　金澤　一美

【報告概要】

認知症の利用者を対象にした専門的なケアを提供し、利用者が可能な限り居宅で自立した日常生活を送ることができるよう、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練や口腔機能向上サービスなどを日帰りで提供した。また自宅にこもりがちの利用者の社会的孤立感の解消や心身機能の維持回復だけでなく、家族の介護の負担軽減などを目的とし事業に取り組んだ。更に若年性認知症者の支援にも力を入れ、若年性認知症サポートセンターゆえみとして、若年性認知症者及びその家族を対象としたサロン活動を実施し、当事者の仲間作りや悩み相談、そして家族の不安や悩み等の解消及び情報交換による心理的負担を軽減することを目的として事業を行った。

【報告項目】

①（介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営
②若年性認知症サポートセンターゆえみ事業
③スタッフ教育

【報告内容】

①（介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営
１）通所支援事業
（1）日常生活とのつながりを意識した認知症者の自立につながるサービスを提供した。
サービス提供日：月曜日～金曜日（年末年始は除く）１日定員：１２名

月	利用延べ数	平均利用者数（1日／月）	利用率（月）	稼働率	登録者率
4月	154	7．3	61．11%	95．65%	63．89%
5月	146	6．6	55．30%	92．99%	59．47%
6月	146	6．6	55．30%	86．39%	64．02%
7月	129	6．1	51．19%	83．77%	61．11%
8月	149	6．5	53．99%	85．63%	63．04%
9月	173	7．9	65．53%	93．51%	70．08%
10月	166	7．9	65．87%	96．51%	68．25%
11月	167	7．6	63．26%	97．09%	65．15%
12月	148	6．7	56．06%	86．55%	64．77%
1月	155	7．4	61．51%	89．08%	69．05%
2月	159	8．0	66．25%	94．64%	70．00%
3月	196	8．5	71．01%	92．89%	76．45%
合計	延べ合計	平均利用者延べ数（1日）	延べ利用率合計	稼働率	登録者率
	1888	7．26	60．53%	91．23%	66．27%

Ｒ4年度１８８８名　前年度比△１９２名
登録者３１名　新規１９名　終結者１０名（Ｒ5．３．３１現在）

・実績に対する分析内容

今年度は、４・５・６・９・１１・１・２・３月に新規利用あり。利用目的は、家族の介護負担の軽減・清潔保持、活動性を持たせたい、認知症の進行に伴い他サービスから移行になったためとなっている。

介護度は要支援１、要介護１～５内訳として当財団居宅から７件、他事業所から１２件となっている。新規利用者１９名。新規利用に関しては、１９名中１３名の方が新規介護認定を受け、初めて介護サービスを利用されている。介護支援専門員からの相談にて利用、家族希望にて利用、認知症専門医の薦めにて利用。終結者は、１０名で身体状況の変化により、他サービス移行、在宅での生活が困難の為、他施設入所、治療目的の入院、本人希望の為となっている。上半期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響継続、職員が陽性となり、２日臨時休業している。他サービス移行、ワクチン接種、受診、体調不良による休みによりキャンセル。営業活動を計画的に行い、９月に新規５名増になるも利用率平均５７．０７％。下半期に関しても新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響も継続しており、在宅での生活が困難、他サービス移行、受診、入院、体調不良、短期利用キャンセルがあった。計画的に営業活動を行うことで新規利用者が少しずつ増加傾向。下半期の利用率が６３．９９％と前年度に比べ７．６％増。しかし、年平均６０．５３％と目標値８０％に達していない。前年度比３．８４％の増となっている。

利用相談は、結び家の特性を理解している現在利用されている利用者担当の介護支援専門員の件数もあったが、居宅へ顔の見える営業、ＦＡＸ、電話にて空き情報を継続し、利用に繋がった。

・新型コロナウイルス感染症拡大予防の為キャンセル

区分＼月	6月	7月	8月	9月	１１月	１２月
要支援１						
要介護１	１名（１日）	３名		１名（２日）		１名（１日）
要介護２	３名（１日）	２名			１名（１日）	１名（１日）
要介護３	１名（１日）	７名	１名（３日）		１名（１日）	１名（１日）
要介護４		１名				
要介護５						１名（３日）
合計人数	６名	１３名	１名	１名	２名	３名
日数	１日	５日	３日	２日	２日	５日

※同居家族、本人が感染に伴いキャンセル。入居施設にて感染発生。職員が陽性となり大事を取り臨時休業（２間日）（令和４年６月３０日、７月１日休業）
（合計人数１９名、合計日数２７日）

（2）在宅生活を支えるための地域・家族交流（例年行っている交流）

◆八戸シニアはつらつポイント事業でのボランティア受入継続
◆グッジョブ受け入れ
◆上長地区敬老会　新年会
※新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、全て中止となっている。

（3）安定した収入の確保（営業関係）

広報活動：医療機関、居宅介護支援事業所等への広報活動を計画的に実施した。顔の見える営業活動の実施。利用相談は、営業活動もあり新規居宅支援事業所も増えた。また、結び家の特性を理解している現在利用中の担当介護支援専門員の相談が多かった。

・営業活動

月	実施内容
4月～3月	毎月ＦＡＸ、実績時に空き情報案内・ホームページにて空き情報案内・電話にて空き情報案内・サービス会議時の空き情報案内
4月	市内居宅へ営業　　2件
5月	市内居宅へ営業　　4件
7月	市内居宅へ営業　　6件
１2月	市内居宅へ営業　　5件
1月	市内居宅へ営業　１0件
2月	市内居宅へ営業　　4件

・新規利用者獲得　新規利用者　当財団居宅から7件、他事業所から１2件　新規利用者１9名

月	新規利用人数
4月	1名
5月	1名
6月	2名
9月	5名　　営業活動に行った居宅から1名
１1月	1名
1月	4名　　営業活動に行った居宅から2名
2月	1名　　営業活動に行った居宅から1名
3月	4名　　営業活動に行った居宅から2名
合計	１9名

※顔の見える営業活動が少しずつ成果をあげている。

（4）運営推進会議

八戸市より、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、運営推進会議については、事業所等の開催場所に参集せずに、運営推進委員へ報告内容を書面で送付し、意見を求めることで、運営推進会議を開催したと認めるという通知がありました。その為、新型コロナウイルス感染拡大防止のため集会形式での開催は中止し書面による報告とした。

月	実施内容
R4．6．8	①R４年度事業報告（資料配布） ②利用アンケート結果報告（資料配布） ※委員6名　介護保険課、高齢支援センターへ資料、報告書配布 ※各委員の方へ資料を配布し意見を求めている。
R4．１2．7	①R４年度上半期事業報告 ※委員6名　介護保険課、高齢支援センターへ資料、報告書配布 ※各委員の方へ資料を配布し意見を求めている。

（5）避難訓練の実施

・日中火災想定の避難訓練２回実施

月	実施内容	参加人数
R4．9．26	日中火災想定の避難訓練	利用者　8名 職員　9名
R5．3．29	日中洪水想定の避難訓練 （図上訓練）シュミレーション訓練	利用者　0名 職員　5名
R5．3．31	日中火災想定の避難訓練	利用者　10名 職員　7名

2）相談支援事業

認知症高齢者だけではなく、若年性認知症及び認知症を発症した障害者の相談にも積極的に応じ、適したサービスを利用できるよう情報の提供を行った。他事業所と連携を図り、認知症者本人の豊かな地域生活につながるよう支援を実施した。

相談内容	利用相談	家族相談	利用中止相談	合計
年間件数	22件	0件	0件	22件

※介護支援専門員からの相談件数は多いが、相談だけで他サービスや他施設入所等で実際に利用に繋がった方は１９名。

3）事業活動見学

令和５年２月２日、八戸市高齢福祉部高齢福祉課地域包括支援センター職員が八戸市運動・認知複合型事業の参考にしたいと１名活動内容を見学。また、令和５年３月１０日には八戸市内他事業所職員１名参考にしたいと見学。

②若年性認知症サポートセンターゆえみ事業

若年性認知症者及びその家族を対象としてサロン活動（すこやかサロン結喜）を月１回実施し、本人や家族の交流の場として、仲間作りや家族の精神的負担の軽減を図った。冬期間は参加されていなかったが、遠方の青森市から若年認知症者と家族が参加されている。

家族間でのアドバイス、介護経験等を通じての助言や提案等もあり、学ぶことも多く、家族の方からは毎回のサロンが楽しいとの話しが聞かれていた。新型コロナウイルス感染者増加に伴い、拡大防止の為に４月は開催中止とした。中止連絡時に近況状況を聞く対応を行った。

５月・６月は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催時間の短縮、感染対策を行い開催した。

７月から、コロナ以前の１１：００～１５：００の開催時間とし、引き続き感染対策を講じながらの開催を実施。

※令和４年７月９日の見学者は青森県高齢福祉課職員

公益事業１　障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らさせる地域づくり事業
（1）障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

月	実施内容	参加人数			
		家族	当事者	見学者	合計
R4．4．9 （第2土曜日）	新型コロナウイルス感染症拡大予防の為中止				
R4．5．14 （第2土曜日）	当事者：テレビ鑑賞・談話 家族：談話	2名	1名	0名	3名
R4．6．11 （第2土曜日）	当事者：テレビ鑑賞・談話 家族：談話	5名	2名	0名	7名
R4．7．9 （第2土曜日）	当事者：昼食・おやつ作り・談話・テレビ鑑賞 家族：談話	3名	2名	1名	6名
R4．8．20 （第3土曜日）	当事者：昼食・おやつ作り・談話・テレビ鑑賞・ドライブ（白山台公園） 家族：談話	4名	2名	0名	6名
R4．9．10 （第2土曜日）	当事者：談話 家族：談話	4名	1名	0名	5名
R4．10．8 （第2土曜日）	当事者：談話・おやつ作り 家族：談話	6名	3名	0名	9名
R4．11．12 （第2土曜日）	家族：談話	2名	0名	0名	2名
R4．12．10 （第2土曜日）	当事者：昼食作り・談話・テレビ鑑賞・ドライブ（八食センター） 家族：談話	2名	1名	0名	3名
R5．1．14 （第2土曜日）	当事者：音楽鑑賞・テレビ鑑賞 家族：談話・作品制作（ヒバ袋／レジン）	5名	2名	0名	7名
R5．2．11 （第2土曜日）	当事者：ピアサポーター養成研修・談話・オセロ・インタビュー 家族：ピアサポーター養成研修・談話	6名	2名	0名	8名
R5．3．11 （第2土曜日）	当事者：昼食作り・テレビ鑑賞・ドライブ（白山台公園） 家族：談話・作品制作（ヒバ袋／レジン）	4名	2名	0名	6名

③スタッフ教育

スタッフの質の向上を図る事で、サービスの質の向上につなげる。伝達能力を身につけられるよう各自担当制にして勉強会を開催した。新型コロナウイルス感染症予防の為オンライン研修参加含む。

月	形態	実施内容
R4．6．11	勉強会	認知症及び認知症について 介護予防及要介護進行予防について
R4．6．17	法人内研修	接遇・倫理及び放れ遵守について MS北東北株式会社　永澤氏五十嵐氏
R4．8．20	法人内勉強会	事故・苦情について
R4．9．5	法人内勉強会	感染症・食中毒の予防について 緊急時の対応及び防災対策について
R4．9．10	勉強会	緊急時の対応及び防災対策について
R4．10．28	法人内研修	ＡＥＤ研修　　八戸消防尻内分遣所
R4．11．15	勉強会	感染症について
R4．11．18	法人内研修	福祉のコミュニケーションについて ケアプランセンターまゆすい髙橋氏
R4．11．21	法人内勉強会	Ｚｏｏｍのやり方について 認知症について
R5．2．6	法人内勉強会	従事者のためのストレスマネジメントについて
R5．2．10	法人内研修	苦情への対応と虐待について （身体拘束・プライバシー保護についての取り組み含む） 青森県運営適正化員会田中宏幸氏
R5．2．20	法人内研修	防犯対策について　八戸警察署
R5．3．11	外部研修	高齢者施設における虐待防止の具体的な実践に向けて （令和３年度調査から体制整備の具体的な方法を学ぶ） 認知症介護研究・研修仙台センター研究部長吉川悠貴氏 オンライン研修（全職員）

◆ケアプランセンター　まゆすい

報告担当者　堀　慕子

【事業報告】

介護を必要とする方が、居宅で適切にサービスを利用できるように介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人及び家族の希望等に沿ってケアプランを作成し様々な介護サービス事業所との連絡・調整を行い、適切なサービスが提供されるよう計画することで、居宅で自立した生活が送れるよう支援することを目的として事業を行った。

【報告項目】

①居宅介護支援事業所の運営
②サービスマネジメントシステムの確立
③介護支援専門員としての人材育成

【報告内容】

①居宅介護支援事業所の運営

1）介護（予防）給付支援サービス

（1）利用実績の管理

ケアプランの作成、介護サービス提供事業所等との連絡調整及びサービス等の利用状況の検証を行い半年ごとに計画見直しを行った。

月別請求件数

介護度／月	要支援	要介護 1・2	要介護 3・4・5	合計	新規	終了
4月	31	65	32	128	3	0
5月	32	66	32	130	1	2
6月	32	65	31	128	1	1
7月	33	65	33	131	6	1
8月	33	68	34	135	5	3
9月	34	71	31	136	3	3
10月	32	74	29	135	0	3
11月	32	73	29	134	2	1
12月	34	68	30	132	1	0
1月	36	65	34	135	2	2
2月	38	66	32	136	3	3
3月	35	64	29	128	2	1
合計	402	810	376	1588	29	20

（2）利用者に関する支援内容を適切に記録した。

（3）認定調査委託件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
										合計	36

認定調査員３名

２）運営上の透明性の確保と継続性

（1）２０２２年度介護サービス情報報告システム登録し情報発信を行った。

（2）在宅介護支援センターや関係機関と連携し新規利用者の獲得に繋げた。

②サービスマネジメントシステムの確立

１）利用者・家族の在宅生活の支援

（1）利用者が自立した生活を営むことが出来るよう十分な聞き取りを行い利用者のニーズを把握し支援を行った。

（2）入院・入所時は情報提供し、退院・退所時は情報を得るよう医療機関・福祉施設等との連携を行うことで利用者の支援を行った。

（3）週１回居宅会議を行い利用者の情報を共有し、担当ケアマネが不在時でも対応を行った。

③介護支援専門員としての人材育成

１）介護支援専門員としての資質向上、専門知識、技術向上を図ることでマネジメントの質の向上を図るために、色々な外部研修に参加している。

月	形態	実施内容
R4．4～5	外部研修	更新研修（専門課程Ⅰ・Ⅱ）
R4．6．17	法人研修	接遇・倫理及び法令遵守について
R4．7．20	外部研修	地域ケア会議
R4．9．1	外部研修	Aブロック研修会
R4．11．11	法人勉強会	事故・ヒヤリハットに伴う事故防止対策について
R4．12．2	外部研修	包括的支援事業研修会
R4．12．9	法人行事	財団事例検討会 『私』にできること ～４０代若年性アルツハイマー型認知症の事例～
R4．12．16	外部研修	地域ケア会議
R5．2．6	法人勉強会	従事者のためのストレスマネジメント
R5．2．10	法人研修会	苦情への対応と虐待について
R5．3．9	外部研修	ＢＣＰセミナー

◆認知症事例検討会

報告担当者　髙橋　広文

【報告概要】
認知症者になってもその人らしく生活していくために、どのような支援が必要か、またどのような体制が必要か、福祉専門職事例をもとに検証し、認知症者の処遇の向上を目指すことを計画。

【報告項目】
①地域で認知症に携わっている専門職員等と、事例検討会開催を計画。

【報告内容】
①地域で認知症に携わっている専門職員等と事例検討会開催。

昨年に引き続きオンライン（Ｚｏｏｍ）で開催。財団が障害部門と高齢部門（若年性認知症を含む）のある法人であるため、双方の意見を交換できるテーマを設定し事例検討を行っている。今回は介護支援専門員の他に特定相談支援事業所の相談支援専門員にも開催案内を送付している。申し込み方法もＦＡＸとオンライン（グーグルフォーム）を活用している。事例検討では、障害支援者と高齢支援者を組み合わせてグループ分けした事で、「若年性認知症の方と接する機会がなく、検討が難しかったが大変勉強になった」との意見が聞かれた。

良かった点として、トラブルがあっても慌てず状況確認を行い、臨機応変に対応できていた、研修が始まるまでの待機画面（Ｚｏｏｍの設定方法等）があったおかげでスムーズに研修を始めることができた。

反省点として、障害部門の参加者が少なかったこと、質疑応答の時間を設けた方が良かったのではないか、全体の流れをリハーサルした方がよりスムーズにできたのではないか。

今後もこの様な形での開催が増える可能性もある為、今回の良かった点、反省点を活かしてより良い形を作ることができればと思う（添付資料①当日資料②参加者名簿・出欠簿③参加者アンケート）。

実施月日	計画内容	参加施設	参加者数
Ｒ4．１２．９ １８：００ ～１９：３０	『私』にできること ～４０代若年性アルツハイマー型認知症の事例～ ケアプランセンターまゆすい 介護支援専門員　髙橋　広文氏 （オンライン開催：結び家１階より配信）	居宅介護支援事業所、高齢者支援センター、特定相談支援事業所	１７名

◆青森県若年性認知症総合支援センター

報告担当者　勝見　綾乃

【報告概要】

若年性認知症に対する認識が不足し、診断される前に症状が進行し社会生活が事実上困難となるケースや、本人やその家族、企業及び医療機関が若年性認知症を知っていても、活用が可能な福祉や雇用の施策があまり知られていないことなどから、経済的な面も含めて本人とその家族の生活が困難になりやすいことが指摘されている。これらの問題を解消し、若年性認知症の人一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援を受けられるようにすることを目的として運営した。

【報告項目】

①若年性認知症総合支援センター事業の運営

【報告内容】

①若年性認知症総合支援センター事業の運営

１）相談支援事業

若年性認知症の多岐にわたる相談のワンストップ窓口の開設し、訪問、来所相談、電話相談、相談会等にて以下の相談に応じる。

・福祉サービスの利用援助に関すること
・社会資源を活用するための支援に関すること
・社会生活力を高めるための支援に関すること
・権利擁護のために必要な援助に関すること

※必要に応じて同行や関係機関との連絡調整を実施。

年間相談内容	通常相談	継続相談	その他	単純問合せ	合計
件数	９３件	４件	５件	０件	１０２件

（備考）通常相談：６４歳以下の相談
継続相談：初回相談６４歳以下で現６５歳以上の相談
その他：１８歳未満６５歳以上の相談

出張相談会

月	行動報告
R4．９．25	令和４年度　若年性認知症相談会ｉｎ青森市実施（青森市）
R4．１１．１３	令和４年度　若年性認知症相談会ｉｎ五所川原市実施（五所川原市）
R4．１１．２３	令和４年度　若年性認知症相談会ｉｎつがる市実施（つがる市）

２）若年性認知症自立支援ネットワーク会議の実施

発症初期から高齢期まで本人の状態にあわせた適切な支援が図られるよう、医療・介護・福祉・雇用の関係者が連携する若年性認知症自立支援ネットワークを構築するための会議をＺｏｏｍで開催した。

報告では、令和３年度の実績報告と令和４年度の計画について報告している。情報提供として、青森県健康福祉部高齢福祉保険課音喜多氏より青森県若年性認知症施策について、説明し、松倉と音喜多氏より令和３年度若年性認知症実態把握事業について調査結果と課題について報告している。

協議では、調査結果をもとに、早期受診・早期治療・予防について意見を収集している。

協議の結果、早期受診・早期治療・予防のため、県民に対して若年性認知症と当センターの周知を進めていくことが最重要課題として挙げられ、周知方法として、各団体へ広報協力依頼を行う他、

CM・動画・バナーの作成等の提案があった。また、ホームページの見やすさ、QRコードを活用したアクセスのしやすい方法の検討、県広報紙へ若年性認知症特集を掲載することについて検討し協議を終了している。
その他、ネットワーク研修及び若年性認知症総合支援センターの周知について委員へ協力依頼を行っている。

実施月日	実施内容	構成団体（１２団体）
R4．8．30	令和４年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク会議実施 ・報告 令和３年度実績報告 令和４年度事業計画 ・情報提供 青森県若年性認知症施策について 令和３年度若年性認知症実態把握事業調査結果の報告 ・協議内容 早期受診・早期治療・予防について ・その他	≪学識経験者≫ 青森県立保健大学　教授 ≪医療≫ 青森県医師会 認知症疾患医療センター ≪介護福祉≫ 青森県介護支援専門員協会 青森県障害者就業・生活支援センター連絡協議会 ≪当事者関係者≫ 認知症の人と家族の会青森県支部 ≪労働施策≫ 青森労働局職業安定部職業対策課 青森障害者職業センター 青森産業保健総合支援センター ≪経済団体≫ 青森県商工会議所連合会 青森県商工会連合会 ≪市町村≫ 青森市高齢者支援課

3）若年性認知症自立支援ネットワーク研修
若年性認知症の人に対する日常生活上の支援、就労上の支援等のために必要な知識・技術を習得するための研修をＺｏｏｍと会場のハイブリッド形式にて実施した。研修当日はＺｏｏｍ参加が５２名、会場参加が１８名となっている。
若年性認知症総合支援センターの役割として、事例を元に発症から相談・対応に関する動画を作成し配信している。渡辺様の講義では、就労継続支援Ｂ型事業所で若年性認知症の方を受け入れた経緯、利用者様への認知症理解を深めるための工夫、今後の展望について等講義していただいた。かながわ認知症本人大使様には、認知症と診断された時の気持ち、家族（妻の家族）への告知に対する葛藤、現在生活する上で工夫している事など会場から質問されたことも含めてお答えいただいた。

実施月日	実施内容
R4．9．25	令和４年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク研修実施 ・青森県若年性認知症総合支援センターの役割について ・講義「就労継続支援Ｂ型事業所が支える若年性認知症」 講師：渡辺　典子氏（特定非営利活動法人　マイＷａｙ） ・対談 講師：渡辺　典子氏（特定非営利活動法人　マイＷａｙ） かながわ認知症本人大使　様（氏名非公表） 進行：松倉　典子（若年性認知症総合支援センター）

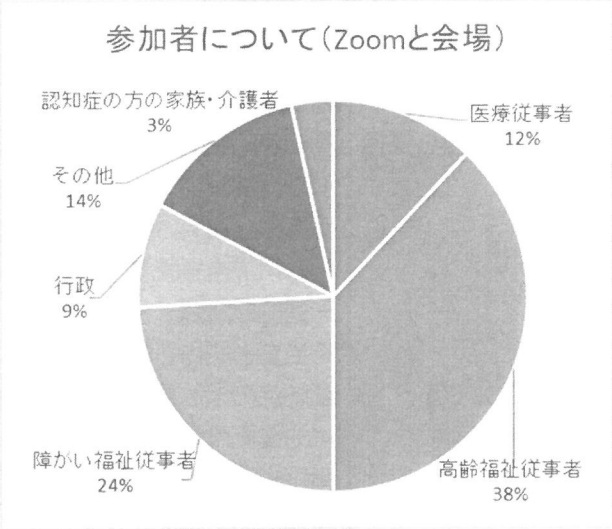
【若年性認知症自立支援ネットワーク研修　アンケート結果】

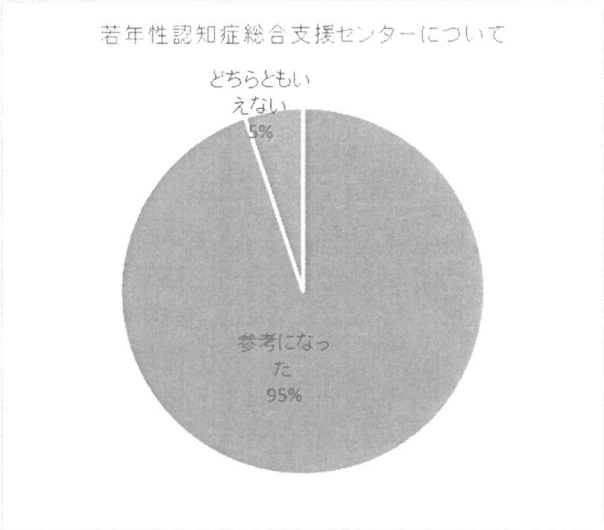
・アンケート回答数：Ｚｏｏｍ３８名　会場２０名（会場は県職員２名含む）

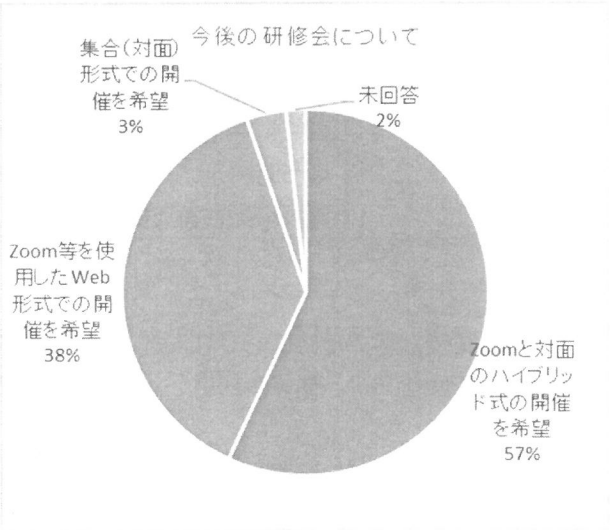
・参加者について

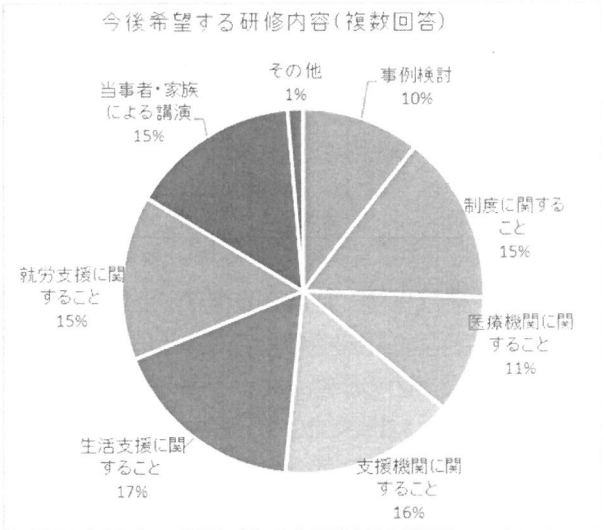
Ｚｏｏｍ　医療従事者７名　高齢福祉従事者１８名　障害福祉従事者８名　行政３名
その他２名

会　場　高齢福祉従事者４名　障害福祉従事者６名　行政２名
認知症の方の家族・介護者２名　その他６名









◆メンタルヘルスに関する事業

報告担当者　松倉　典子

【報告概要】

メンタルヘルスに関する事業を通して疾病発症を未然に防ぐことで、精神疾患発症の予防・早期発見・再発防止・社会復帰等の支援をする事で、心の健康を保ち、健全な地域づくりを行う事を目的として事業を行った。

【報告項目】

①ストレスチェックの実施
②メンタルヘルスに関する研修会の開催及び講師の派遣

【報告内容】

①ストレスチェックの実施

１）労働安全法に基づき、ストレスチェックの実施対象となる者並びに企業及び法人等からの依頼により、ストレスチェックを実施した。

実施日	委託者	実施内容
R4．9	医療法人青仁会	・実施及び集団分析 受検者：154名
R5．2	社会福祉法人昭壽会	・ストレスチェック実施事前研修 1／19　15：00～15：30 ・実施及び集団分析 受験者：52名　面接指導実施：0名

②メンタルヘルスに関する研修会の開催及び講師の派遣

１）講師の派遣依頼無。

◆障害者の作品展示

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】
障害者の創作した美術作品を公開する場を設けた。また、その美術作品を通して、地域住民やその他の方に対し、展示作品の説明、紹介を行い、障害への理解・認識を促進するための事業を行った。

【報告項目】
①障害者の作品展示
②作品見学会の実施
③広報

【報告内容】
①障害者の作品展示
1）病気の症状等の現れともいえる作品に触れる機会を設けることで、少数ではあったが、病気や障害についての理解を深めていただいた。

②作品見学会の実施
1）法人で行う各研修会を利用し、来場者に対して作品紹介・説明等を行なう予定をしていたが研修、事例検討会についてもＷＥＢ開催となったため、研修に伴う来場者はなかった。

2）事前予約を受付け、見学会を実施
毎年事前予約により、学生の見学会を実施していたが、今年度は予約がなかった。

③広報
1）広報活動を行う予定であったが、新型コロナウィルス感染症の収束の見通しが立たず、全く広報活動をすることができなかった。

◆障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】
障害者や高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、地域住民等の理解や協力を促進するために、イベントや講演会等を実施した。

【報告項目】
①障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会を開催し、地域住民、公的機関等との連携、協働による地域福祉のネットワークづくりを推進する。
②高齢者・障害者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講習会等の実施
③障害者、高齢者、認知症者への偏見を除去し、地域住民との交流を図るためのイベント等を開催

【報告内容】
①～③共通
障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会及び障害者、高齢者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講演会の実施並びに障害者、高齢者、認知症者への偏見除去・地域交流を図るためのイベント等を開催した。

1）障害者、高齢者、認知症者を支援するための講座の実施
・認知症サポーター養成講座の実施
地域住民等への認知症サポーター養成講座を実施。独自開催は高齢者障害者人権委員協議会より依頼を受け実施した。

実施日	講演内容	対象者
R5. 2. 7	認知症サポーター養成講座	高齢者障害者人権委員協議会 20名

・障害や疾病に対する理解促進、障害者の継続した地域生活の為の連携等を目的とした各研修会の実施

実施日	講演内容	対象者
R5. 2. 17	障害者サポーター養成講座 学校法人光星学院 八戸学院大学短期大学部構内で実施。	八戸学院短期大学部 介護福祉学科１年生　17名 八戸学院大学 人間健康学科２年生　５名 看護学科　２年生　１名 地域経営学科 教授　１名

2）講演会の開催

実施月日	実施内容	参加者
R4．11．11	テーマ「“受援”、考えてみませんか」 講師　八戸学院大学短期大学部　介護福祉学科 准教授　鳴海　孝彦　氏 ・Ｚｏｏｍによるオンライン講演会の形式で実施	32 団体（64 名）
R5．1．28	テーマ「高齢者の施設・在宅でのコロナ対策について」 講師　医療法人はちのへファミリークリニック 院長・理事長　小倉　和也　氏 ・Ｚｏｏｍによるオンライン講演会の形式で実施	40 団体

3）イベントの開催

・今年度は新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、例年実施しているすこやか祭り、もちつき大会は中止となった。

4）八戸市主催「認知症フォーラム」への参加

実施月日	実施内容
R4．10．23	八戸市委託事業　受託先・認知症の人と家族の会 フォーラム企画等に参加　当法人参加人数３名

◆介護予防

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

地域の方一人ひとりが健康維持について高い意識をもち、仲間づくりをすることで、高齢者の閉じこもりを予防し、要介護状態になることを予防することを目的としていたが、令和４年度において、介護予防教室の依頼はなかった。しかし、南部町から依頼を受け認知症セミナーを実施（障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催で報告）予防の重要性について講義内容に組み込んだ。

【報告項目】

①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施

【報告内容】

①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施

１）今年度地域住民を対象とした介護予防教室の実施はなかった。

◆成年後見制度の利用に関する支援

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】
個人の尊厳を重視する権利擁護活動において、権利擁護の推進を図ることを目的とし、スタッフの後見人活動を支援した。

【報告項目】
①法人スタッフの権利擁護活動を支援
②成年後見制度利用相談支援

【報告内容】
①法人スタッフの権利擁護活動を支援
「ぱーとなー青森」に所属する法人スタッフ１名の後見活動を支援した。

対象者	実施内容	登記	担当
知的障害者　女性　６０歳代	後見事務	Ｈ２４．１２．１４	松倉

②成年後見制度利用相談支援
法人全体で成年後見制度利用に関係する相談は、令和４年度において１件。

◆もの忘れ検診機器の貸出

報告担当者　松倉　典子

【報告概要】
認知症の早期発見早期受診を目的として、もの忘れ検診機器の貸し出しを行うことで、もの忘れ検診をより普及した。

【報告項目】
①タッチパネル式もの忘れ検診機器の貸出
②もの忘れ検診機器の点検

【報告内容】
①タッチパネル式の物忘れ検診機器を市町村等へ貸出
今年度の貸し出しはなかった。
貸出台数：0台（前年度実績0台）

②タッチパネル検診機器の点検

月	実施内容
随時	タッチパネル機器とプリンターの点検

◆認知症徘徊ＳＯＳ模擬訓練

報告担当者　佐々木　瞳

【報告概要】

田面木地区社会福祉協議会と協力し、例年認知症徘徊模擬訓練を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、昨年に引き続き訓練実施は見送りとなっている。

しかし、平成２０年より田面木地区に根差した活動として実施してきており、この活動が途切れる事のないよう地域の各団体、近隣福祉施設、行政とのつながりを継続していけるよう調整を行った。

【報告項目】

①田面木地区で認知症徘徊ＳＯＳ模擬訓練の実施（中止）

②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動並びに立ち上げ協力、組織化への支援を実施

【報告内容】

①田面木地区で認知症徘徊ＳＯＳ模擬訓練の実施（中止）

７月中旬以降、市内の新型コロナウイルス感染者が増加傾向となり、複数のクラスターが発生していた事や、市の関連施設が休館となっていた事等から主催者と開催について検討、総合的に判断し中止としている。

１）中止についての案内を関係各所に配布

徘徊模擬訓練を来年度以降も継続した取り組みとして関係者に認識して頂けるよう、関係各所へ中止のお知らせを配布した。

実施日	実施内容	備考
R4．9．2	田面木地区社会福祉協議会会長と今年度の開催について検討し、中止の判断となる。関係機関へ中止の案内を配布する。	―
R4．9．5	中止のお知らせ文書作成、配布先の確認	―
R4．9．6	文書印刷、配布準備 文書発送（２６箇所）	―

２）認知症サポーター養成講座の実施（中止）

教育施設におけるクラスターや地域の感染状況を考慮し、今年度の養成講座の開催は中止としている。

②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動並びに立ち上げ協力、組織化への支援を実施支援予定としていたが、依頼がなかったため実施しなかった。

◆自動販売機等の設置及び不動産貸付事業及びレストランサービス事業

報告担当者　代表理事　松倉　典子

【報告概要】

収益事業で収入を得ることにより、その収益の５０パーセントを公益事業へのみなし寄付することで、公益目的事業の運営資金とするために事業を行った。

【報告項目】

①自動販売機収入
②公衆電話収入
③不動産貸付事業収入
④レストランサービス事業収入

【報告内容】

①自動販売機収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂１６－８ 地域生活支援センター青明舎前	・販売機周辺の清掃 ・入金確認

②公衆電話収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字松長根5-4 グループホーム「5番館」内	・集金 ・入金 ・電話機のメンテナンス
八戸市大字田面木字赤坂35-9 グループホーム「青風荘」内	
八戸市大字田面木字赤坂35-35 障害者生活訓練施設「青山荘」内	

③不動産貸付事業収入

1）屋外広告用看板スペース貸出し収入

貸出場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂16-8 地域生活支援センター青明舎　建物壁面	・借主（医療法人青仁会）との打合せ ・４月～１１月分　入金確認

2）土地の賃貸借による収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂22-1	・契約内容の確認打合せ ・入金確認 ・支払確認
八戸市大字田面木字赤坂22-2	
八戸市大字田面木字赤坂24-1	
八戸市大字田面木字赤坂24-2	
八戸市大字田面木字赤坂24-4	
八戸市大字田面木字赤坂24-5	

④レストランサービス事業収入

提供事業所	実施内容
グループホーム　青風荘	・食数確認（毎週金曜日） ・請求書発行（毎月５日） ・入金確認（毎月１０日） ・食材の買出し（毎週月・金曜日）
障害者生活訓練施設　青山荘	
グループホーム　南寿の里	
ここすこグループホーム	
精神障害者通所リハビリテーションセンター　青陽館利用者	